

## 水に負けず 水を大切に

沖縄県 那覇市立寄宮中学校 二年 大城 奈子

時には被害を与えるが、いつも私達を支えてくれている水。

私は今まで水は恐ろしい物だと分かっていた。いや、分かっていたが、実感が湧かなかつた。しかし、小学生のときにそれを思い知らされる出来事が起こった。それは私が家族やいとこと山原の源河川を訪れた時のことだった。私達は桃源郷のような川の様子に飛び回っていた。透明で透き通っている水、山に囲まれた源河川は、穏やかで鳥の鳴き声が響き渡っていた。しかし、途中からあいにくの雨模様になってしまった。

泳いだり、ボートに乗ったりして楽しく遊んでいた私達だったが、水位が5cm程度上がってきたので、ホテルに戻ることにした。その後、救急車やパトカーのサイレンが聞こえたので私達は川の様子を見に行っていたが、私は我が目を疑った。川は茶色く濁り、水位も上がって波立っていたのだ。先程まで見えていた陸も見えなくなり、大きな丸太も流れていた。つい先程まで遊んでいたことが嘘のような光景。川の反対側について、取り残された人達も大勢いたという。あと五分川から帰るのが遅れていたら、私達も洪水に巻き込まれ、取り残されていたにちがいない。そう考えると、私は水に対する恐怖感を覚えた。東日本大震災では、東北地方を中心に津波が押し寄せ、住宅地や農地を呑み込み、甚大な被害をもたらした。死者と行方不明者の合計は二万五千人以上に上ったそうだ。水は時に人の命を奪い、大きな被害を与える物であると改めて感じた。

一方で水は、人々を助け、人間には欠かせないものである。ウクライナとロシアが戦争をしている今、私は信じ難いことをニュースで知った。それはウクライナの六歳の子供が飲み水がなく、脱水症状で死亡したというニュースだった。私は水不足が原因で人が亡くなったという事実を知り、普段自分がいかに水の大切さを忘れ、水を無駄にしているかという事に気づいた。

今まで私は手洗いの時、水を無意識に出しっぱなしにしていた。インターネットで水の使用量について調べてみると、一人あたり一日に最低でも百L必要だといわれているにも関わらず、三十カ国以上の国々の人達が、二十Lにも満たない給水量で暮らしていることが分かった。しかし日本人は一人あたり二百Lもの水を使っているそうだ。大量の水を使っている私達日本人。全世界の人々が必要最低限の水を使用できるように努力しなければならぬ。そのために一番簡単に取り組めるのは節水だと思う。手洗い、歯みがき、シャワーの水をこまめに止めたり、湯船に貯めた水を洗濯に再利用したりと、身のまわりでできることはたくさんあると思う。例えば少しの節水でも一人一人が心懸けることで、多くの水が集まり、たくさんの人々に水を届けることができると思う。

また、持続可能な開発目標(SDGs)の目標六にも掲げられている「安全な水とトイレを世界中に」は、世界の四人に一人が綺麗な水を使えないという現状から、大きく何かが変わらない限り、二三十年までに目標六を達成することは不可能とされているそうだ。目標六を達成するための資金が不足しているからでもある。そのため、目標六を達成するためには、さらなる資金が必要となってくる。私は今まで赤い羽根共同募金やユニセフの募金しか行ってこなかったのですが、今後は積極的に他の募金活動にも参加したい。「水を大切にする」とは、節水だけでなく、多くの人が水を十分に使用できるように資金を援助したり、できるだけ水を汚さない生活を心懸けることなのではないだろうか。

時には被害を与えるが、いつも私達を支えてくれている水。一人一人が意識し、心懸けていくことが「水を大切にする」ということにつながるのだと私は思う。